

# 2014年9月期第2四半期決算説明会



株式会社アサカ理研

2014年6月4日

- 代表取締役社長
- 野納 敏展(やのう としのぶ)
- 昭和23年(1948年)生まれ
- 広島県出身



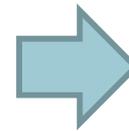
# 目次

- **第一部 2014年9月期第2四半期 決算実績**
- **第二部 2014年9月期通期 業績予想**
- **第三部 経営戦略と新規事業開発について**

- 前期比「減収」「減益」

- 売上高変動の主要因

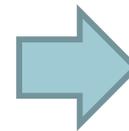
- (減少要因) 貴金属価格の下落
- (減少要因) 受託加工取引の割合増
- (増加要因) 貴金属取扱量の増加
- (増加要因) 新規事業の拡大



**減収**

- 利益変動の主要因

- 貴金属価格の下落
- 製品構成の変化
- 研究開発費の増加
- 営業費用の増加

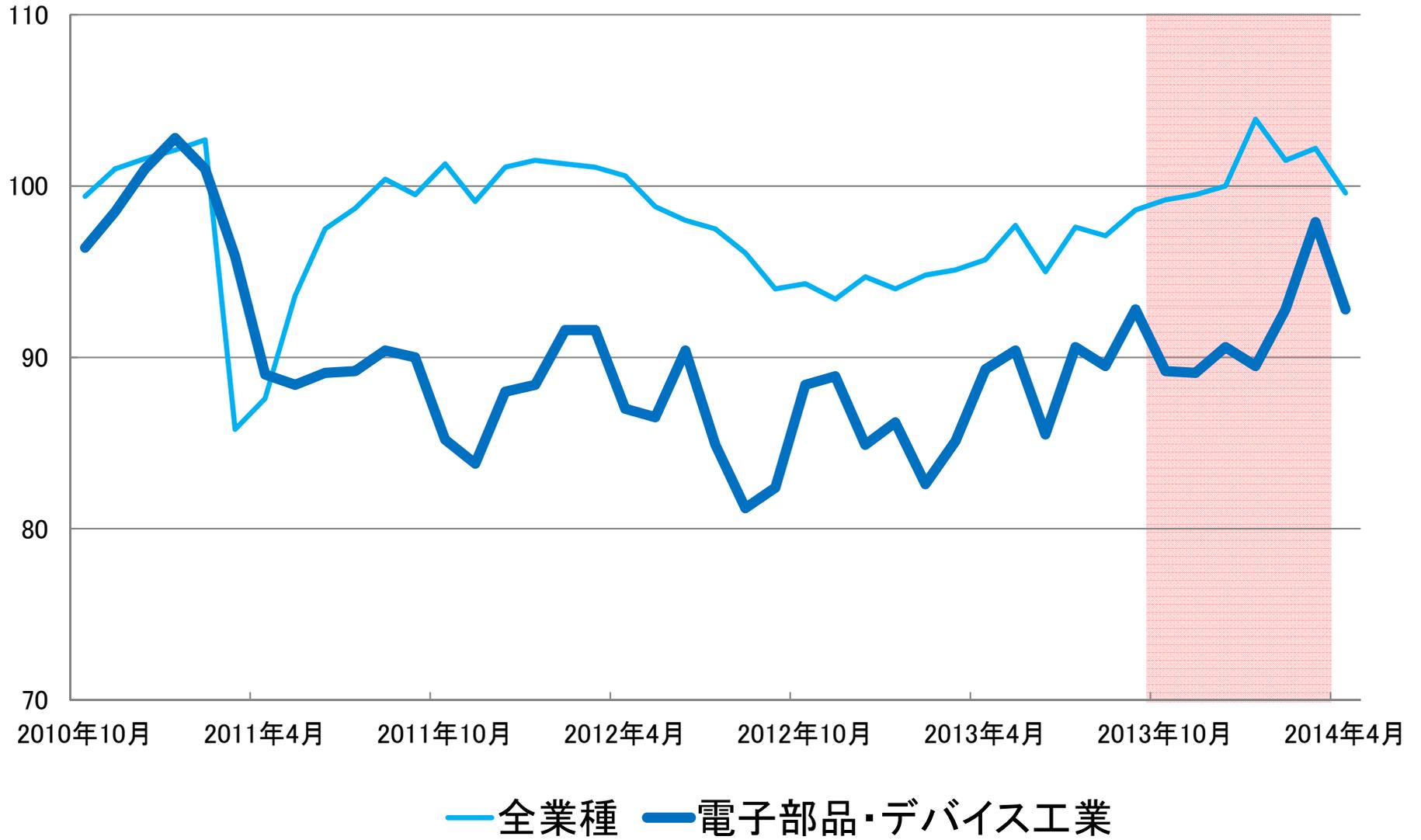


**減益**

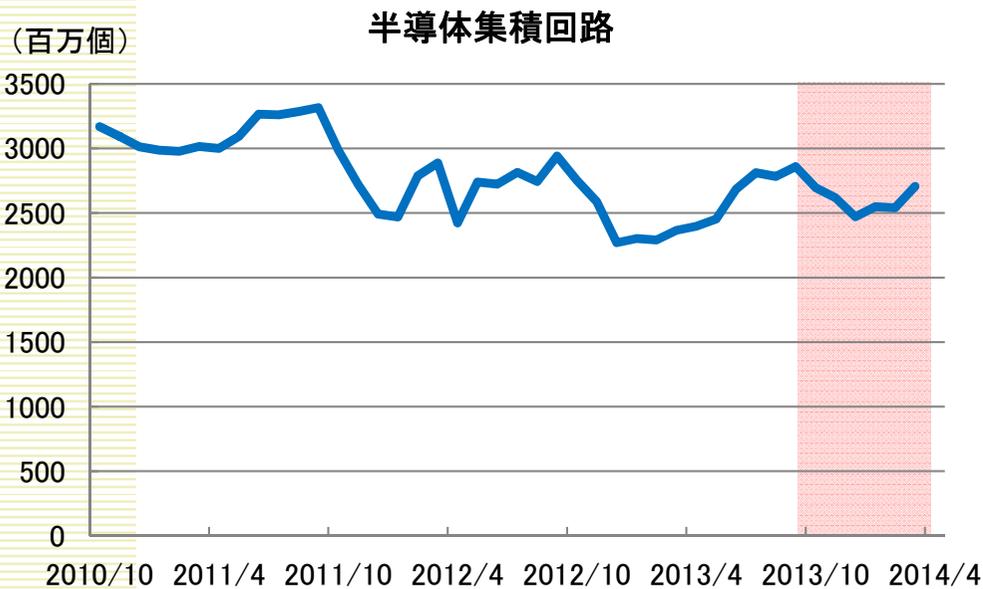
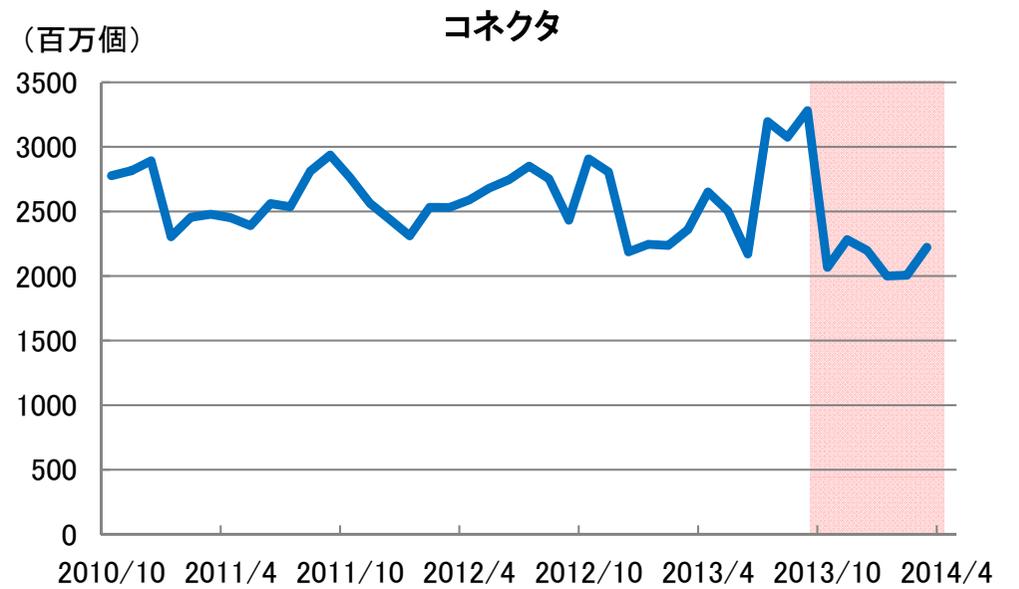
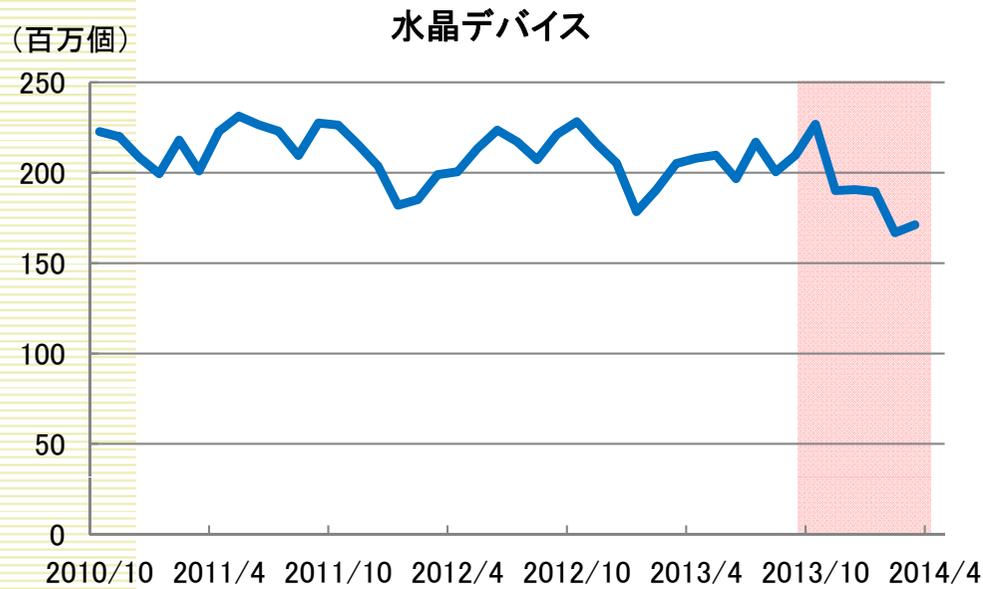
- 事業構造転換に向けた取り組み

- 研究開発活動は順調に進行中

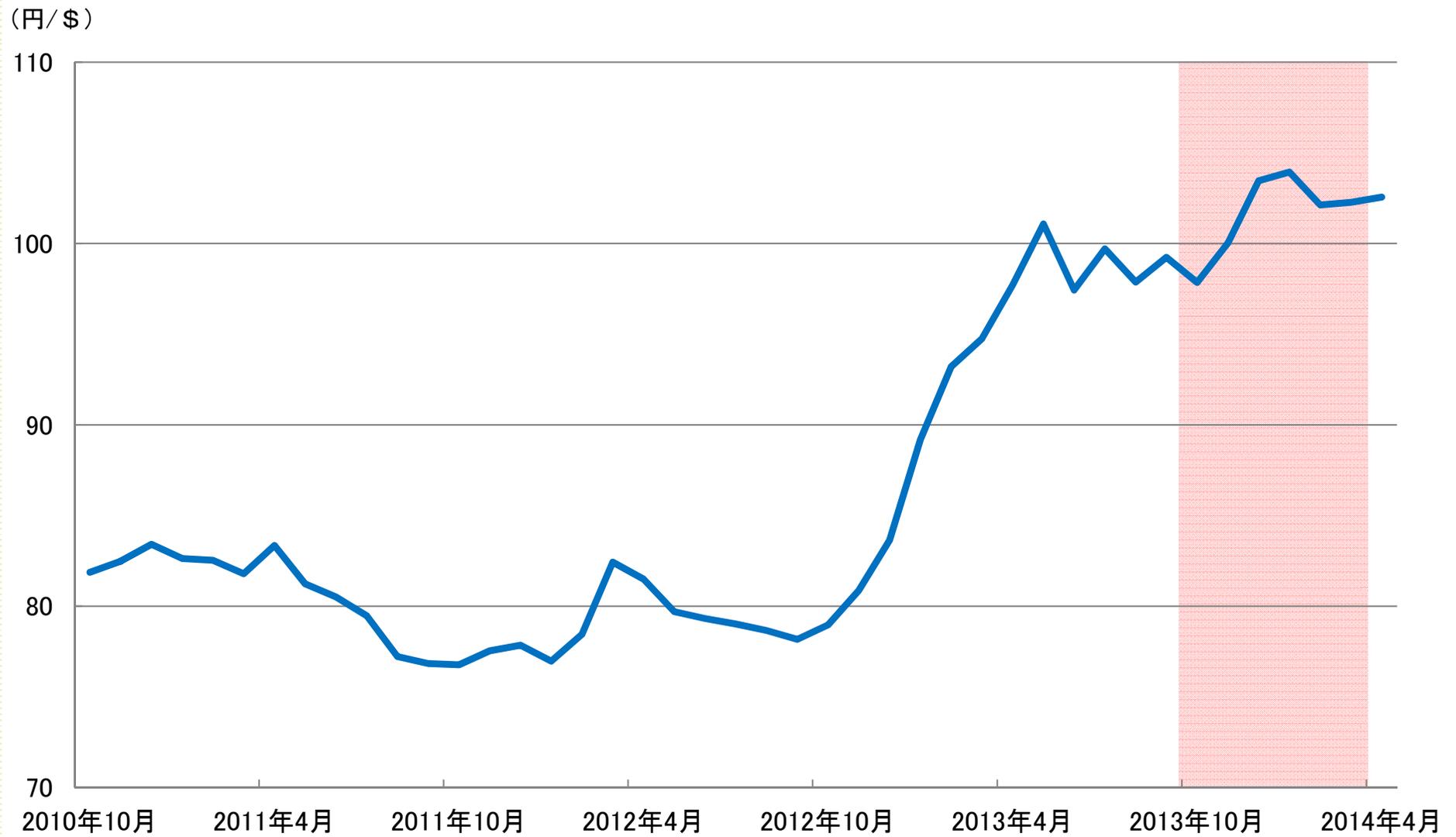
# 事業環境①鋁工業生産指数



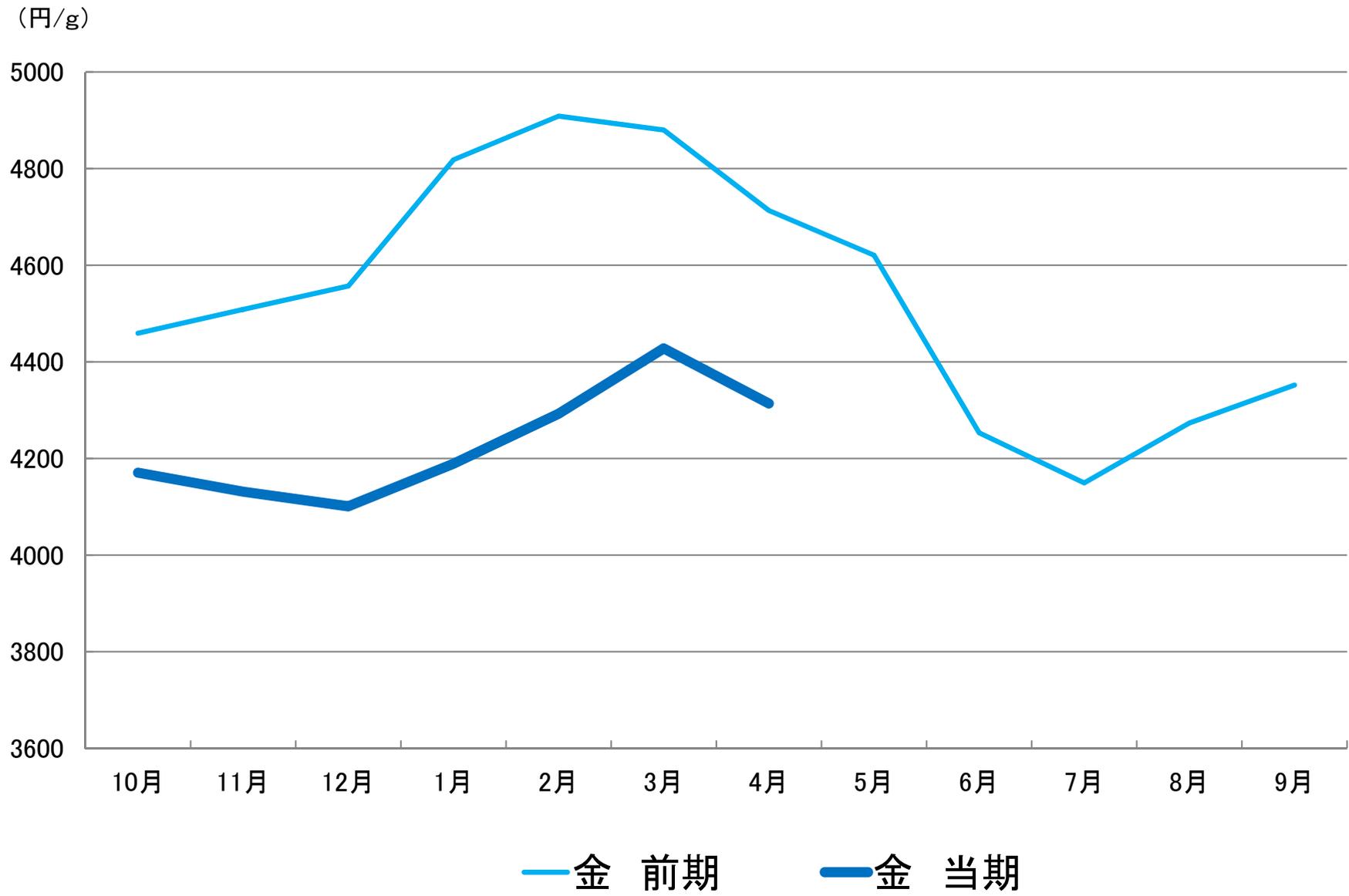
# 事業環境②業界別生産実績



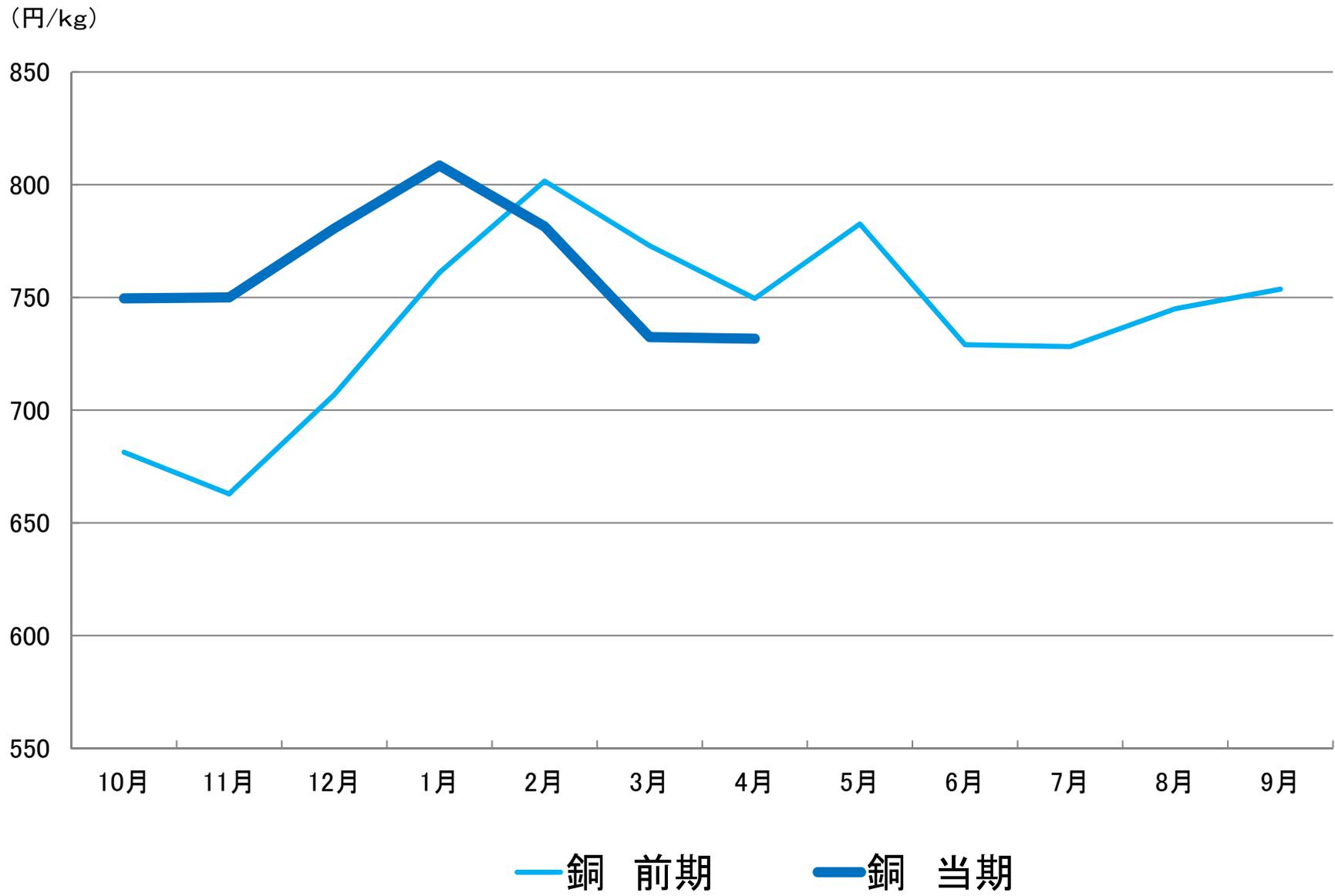
# 事業環境③為替相場



# 事業環境④金価格



# 事業環境⑤銅価格



## ■ 国内景気

- 経済・金融政策による円高是正
- 景況感はゆるやかに回復

## ■ 電子部品・デバイス工業

- モバイル情報端末の普及、車載電子機器の増加
- 国内の生産活動は低調
- 貴金属使用量の減少

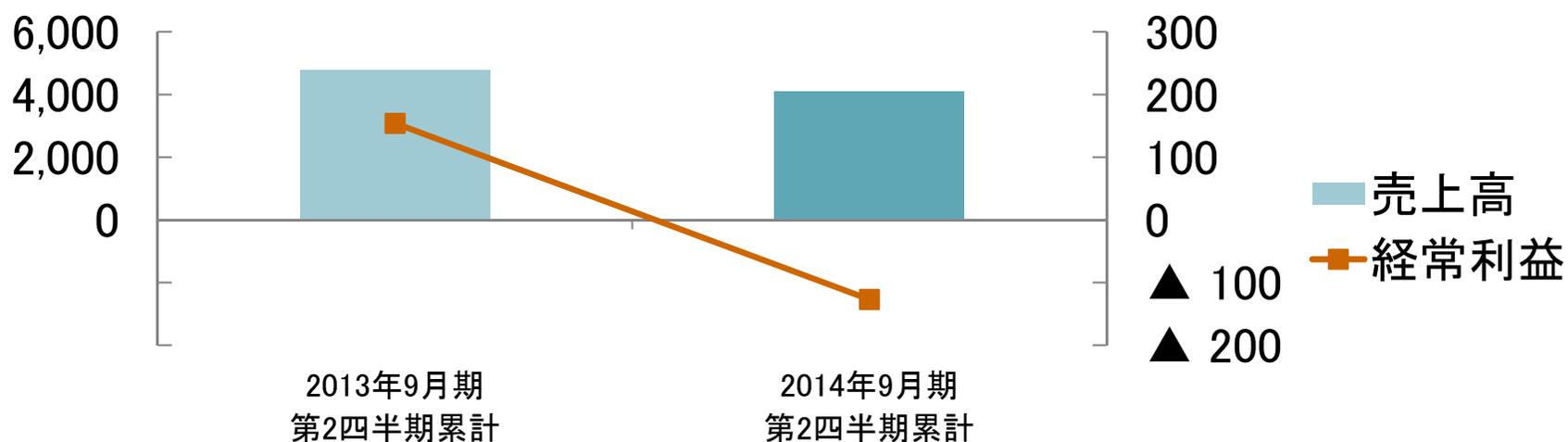
## ■ 金属価格

- 金：ドルベースの下落を受け、前期比で大きく下げる
- 銅：足元はやや軟調ながらも、平均価格は前期より高い

- **レアメタル・レアアースに関する大規模技術開発投資**
  - 福島県いわき市に研究開発拠点を建設
  - 新しい溶媒抽出技術であるエマルション・フロー法
  - 経産省、福島県の補助金を活用
  - 当期で建屋の建設完了、実証設備の設置進む
  
- **海外も含めた新市場の開拓**
  - マレーシア TWINKLE METAL社の買収交渉
  - 新規事業の拡大

# 決算ハイライト

	2013年9月期 第2四半期累計		2014年9月期 第2四半期累計	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	前年同期比	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	4,781	<b>4,084</b>	▲ 696	▲ 14.6
売上総利益	802	<b>548</b>	▲ 254	▲ 31.6
営業利益	152	▲ <b>118</b>	▲ 270	—
経常利益	154	▲ <b>127</b>	▲ 281	—
純利益	95	▲ <b>40</b>	▲ 135	—

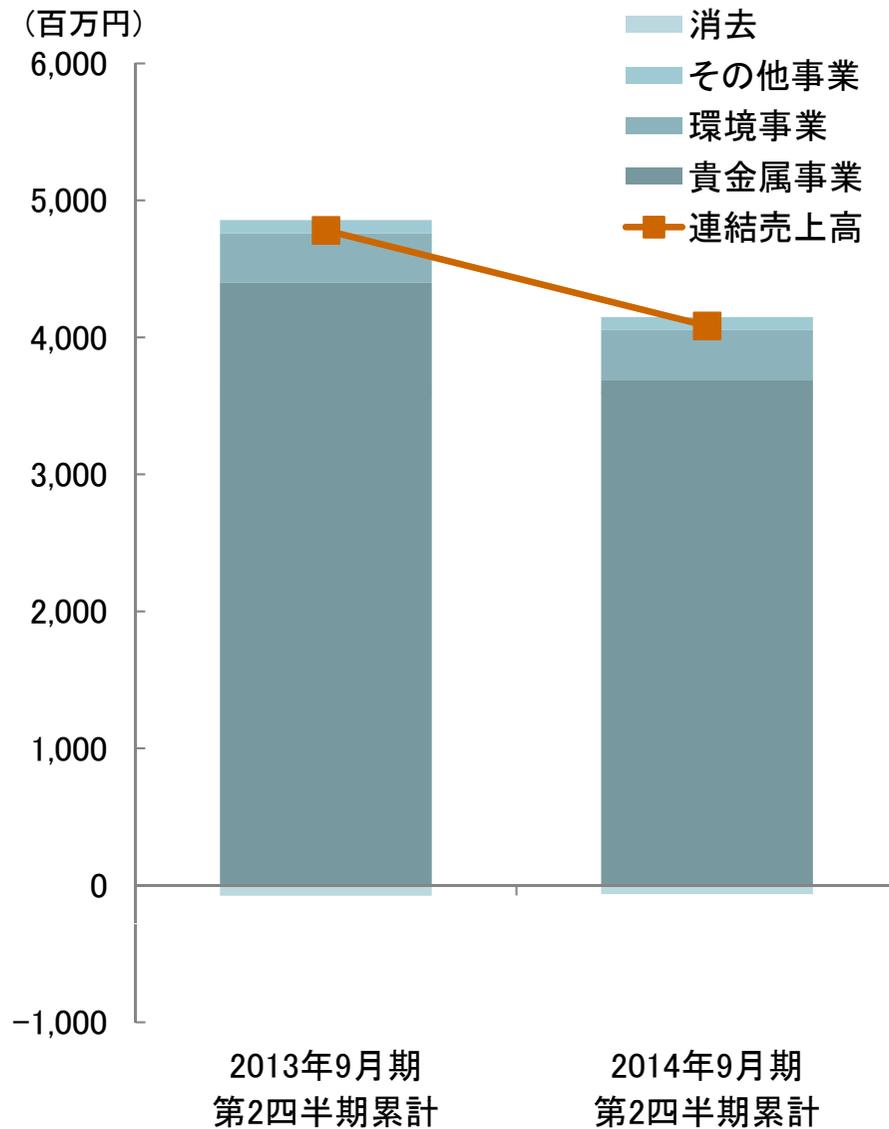


# セグメント別業績①

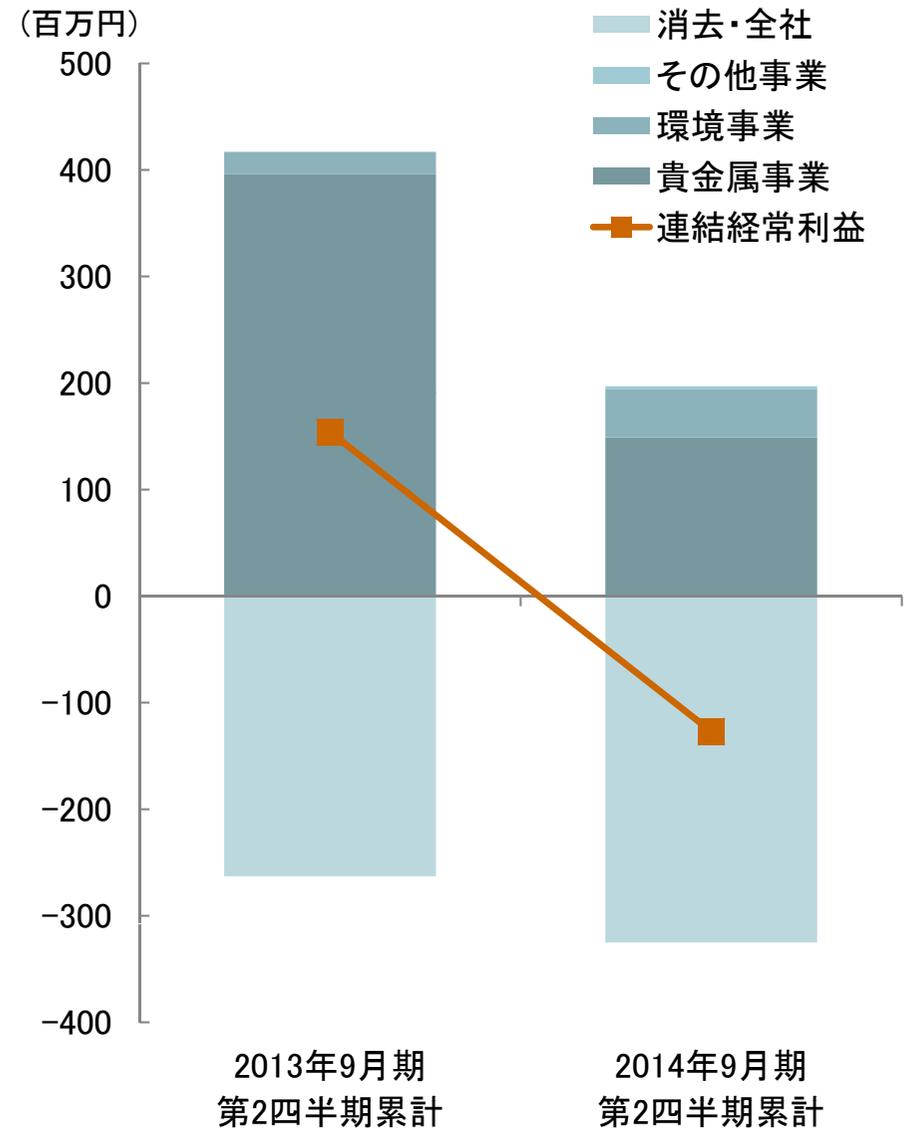
	2013年9月期 第2四半期累計		2014年9月期 第2四半期累計			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
連結売上高	4,781		<b>4,084</b>		▲ 696	▲ 14.6
貴金属事業	4,398	90.5	<b>3,686</b>	88.8	▲ 712	▲ 16.2
環境事業	360	7.4	<b>371</b>	9.0	11	3.2
その他	99	2.0	<b>91</b>	2.2	▲ 7	▲ 7.9
計	4,857	100.0	<b>4,149</b>	100.0	▲ 708	▲ 14.6
消去	▲ 76		▲ 64		0	▲ 15.3
セグメント利益	154		▲ <b>127</b>		▲ 281	—
貴金属事業	396	95.3	<b>149</b>	75.3	▲ 247	▲ 62.4
環境事業	21	5.2	<b>45</b>	22.8	23	107.3
その他	▲ 2	▲ 0.5	<b>3</b>	1.9	6	—
計	416	100.0	<b>198</b>	100.0	▲ 218	▲ 52.4
全社費用	▲ 261		▲ <b>325</b>		▲ 63	24.3

# セグメント別業績②

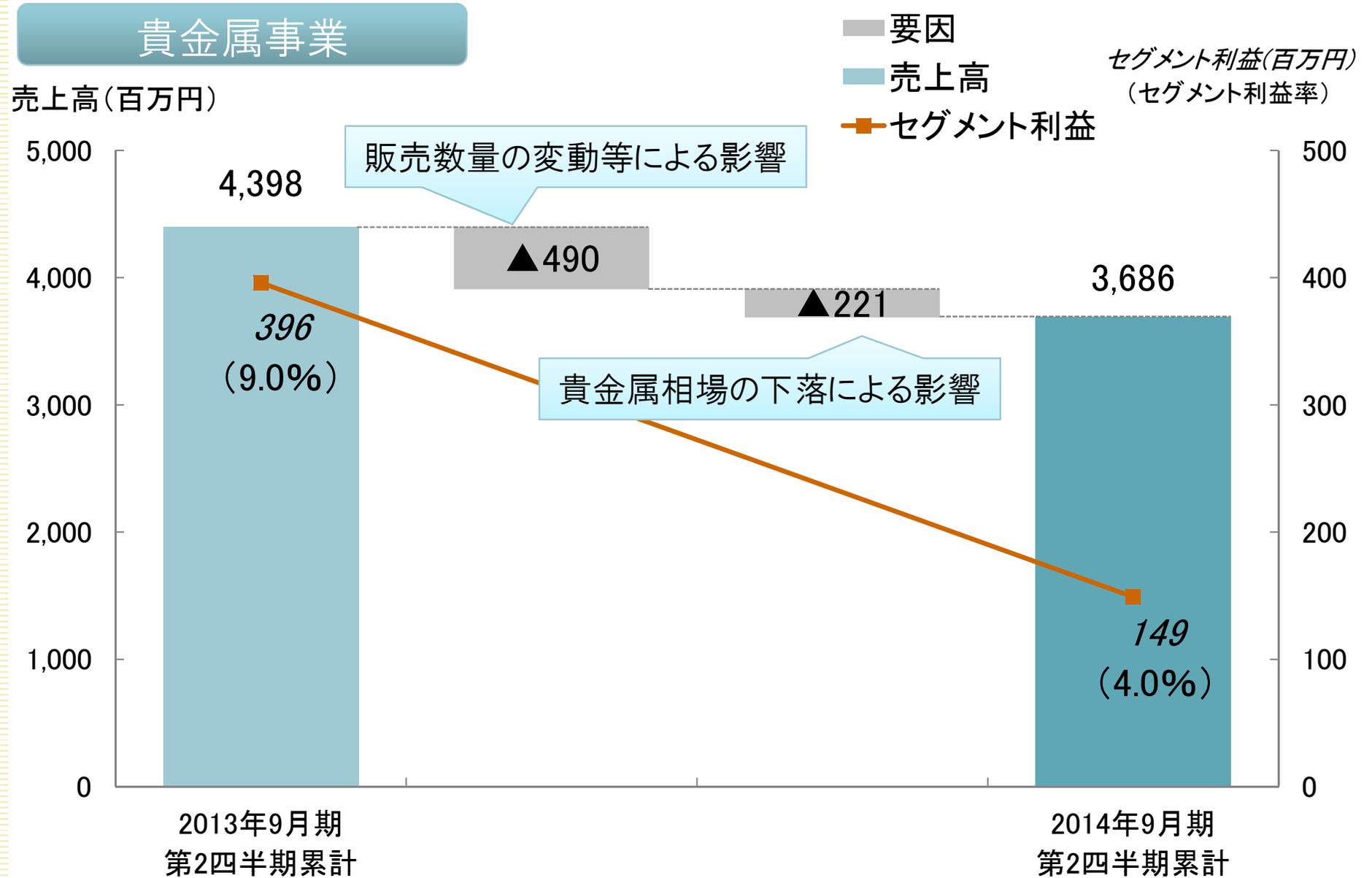
## 売上高



## 経常利益



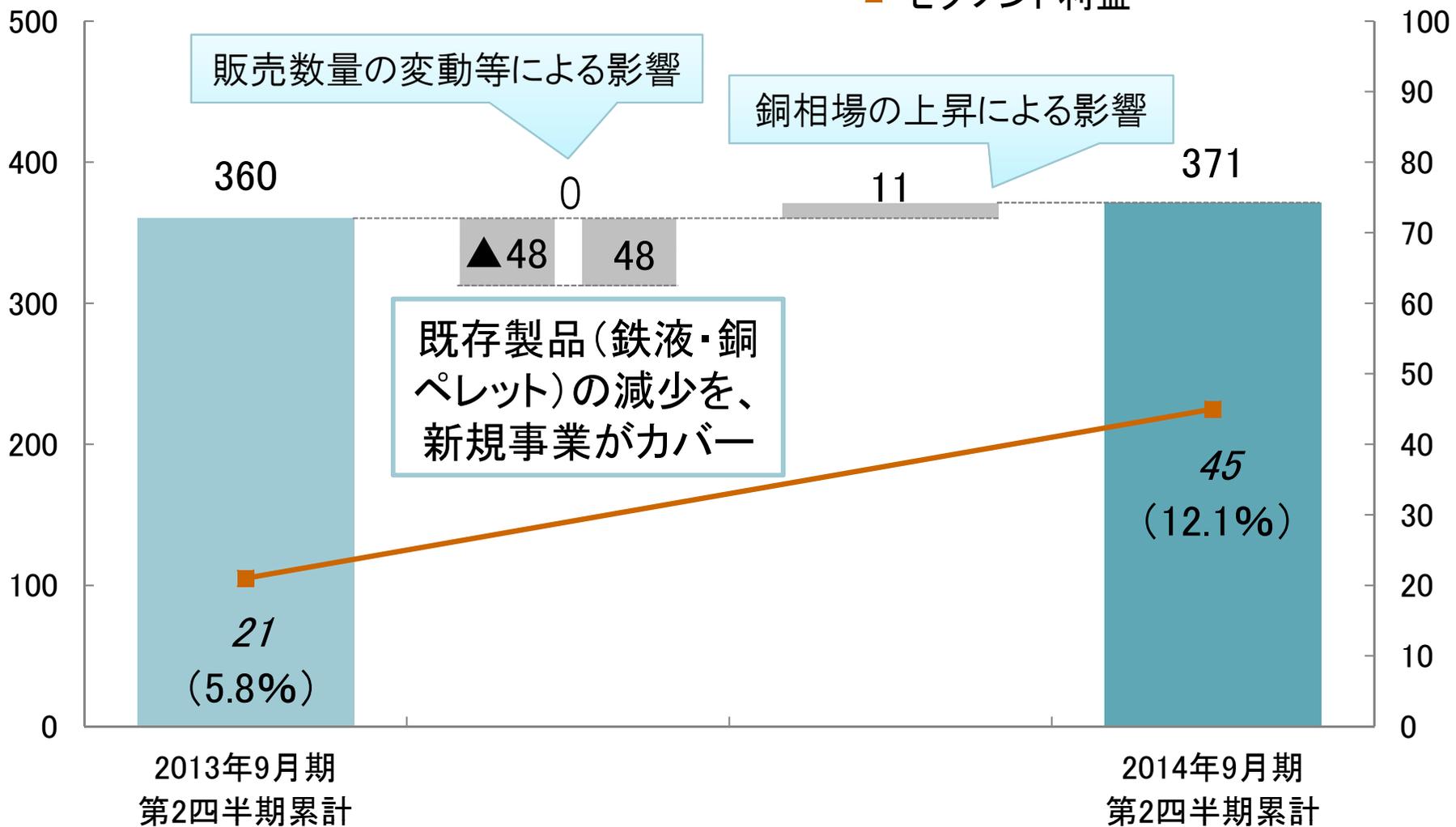
# セグメント別業績③



# セグメント別業績④

## 環境事業

売上高(百万円)



# 連結損益の状況

	2013年9月期 第2四半期累計		2014年9月期 第2四半期累計			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	4,781	100.0	<b>4,084</b>	100.0	▲696	▲ 14.6
売上原価	3,978	83.2	<b>3,536</b>	86.6	▲442	▲ 11.1
売上総利益	802	16.8	<b>548</b>	13.4	▲254	▲ 31.6
販管費	650	13.6	<b>666</b>	16.3	16	2.5
営業利益	152	3.2	<b>▲118</b>	▲ 2.9	▲270	▲ 177.6
営業外収益	16	0.4	<b>7</b>	0.2	(8)	▲ 53.0
営業外費用	14	0.3	<b>17</b>	0.4	2	17.5
経常利益	154	3.2	<b>▲127</b>	▲ 3.1	▲281	▲ 182.5
特別利益	-	0.0	<b>58</b>	1.4	58	0.0
特別損失	-	0.0	<b>0</b>	0.0	0	▲ 87.6
純利益	95	2.0	<b>▲40</b>	▲ 1.0	▲135	▲ 141.9

# 連結財務の状況

		2013年9月期末		2014年9月期 第2四半期末			
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
						増減額 (百万円)	増減率 (%)
	流動資産	2,781	54.2	<b>2,672</b>	44.0	▲ 109	▲ 3.9
	固定資産	2,350	45.8	<b>3,405</b>	56.0	1,055	44.9
資産合計		5,132	100.0	<b>6,077</b>	100.0	945	18.4
	流動負債	1,712	33.4	<b>2,058</b>	33.9	345	20.2
	固定負債	1,220	23.8	<b>1,894</b>	31.2	673	55.2
	負債合計	2,933	57.2	<b>3,953</b>	65.0	1,019	34.8
純資産合計		2,198	42.8	<b>2,124</b>	35.0	▲ 74	▲ 3.4
負債純資産合計		5,132	100.0	<b>6,077</b>	100.0	945	18.4

## 増減理由

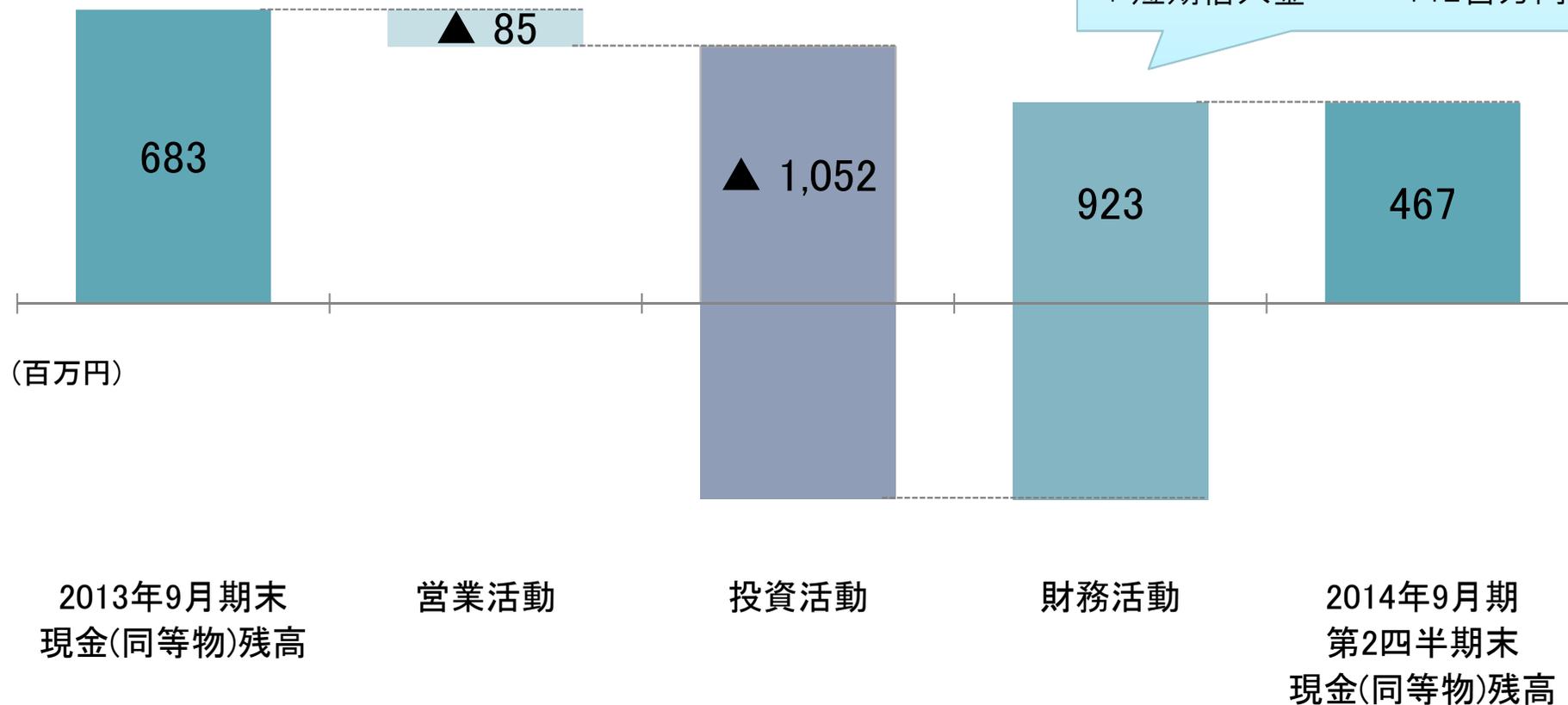
- 資産合計                    +945百万円                    **建設仮勘定+1,081、現金及び預金-215**
- 負債合計                    +1,019百万円                    **長期借入金+714、短期借入金+482、**  
1年内償還予定社債-200
- 純資産合計                    -74百万円                    **利益剰余金-77**

# キャッシュ・フローの状況

ー税金等調整前四半期純損失 69百万円  
 ー法人税等の支払 56百万円  
 ー仕入債務の減少 50百万円  
 十棚卸資産の減少 90百万円  
 十減価償却費 87百万円  
 十売上債権の減少 24百万円

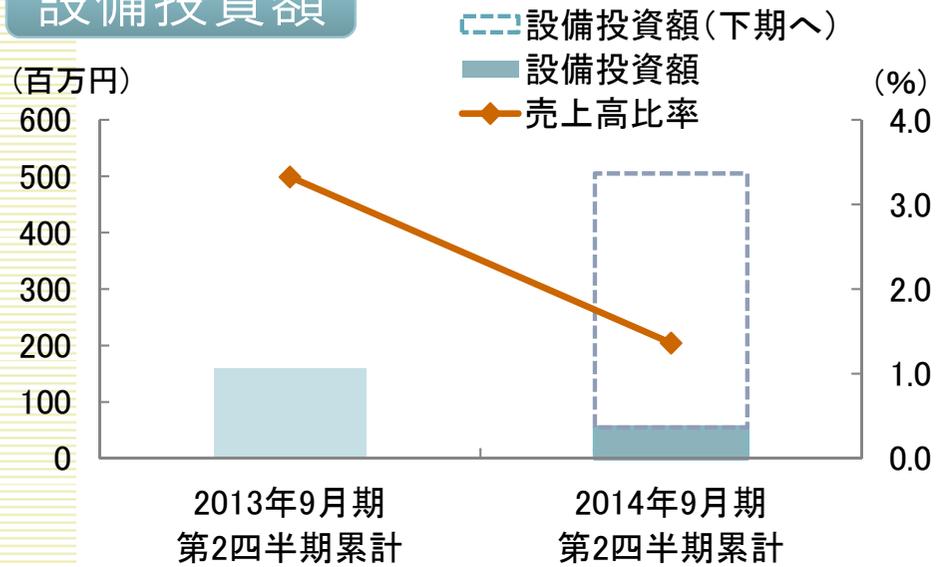
ー有形固定資産の取得 958百万円  
 ー貸付 150百万円

ー社債償還 230百万円  
 ー配当支払い 37百万円  
 ー長期借入金返済 34百万円  
 十長期借入金 790百万円  
 十短期借入金 442百万円

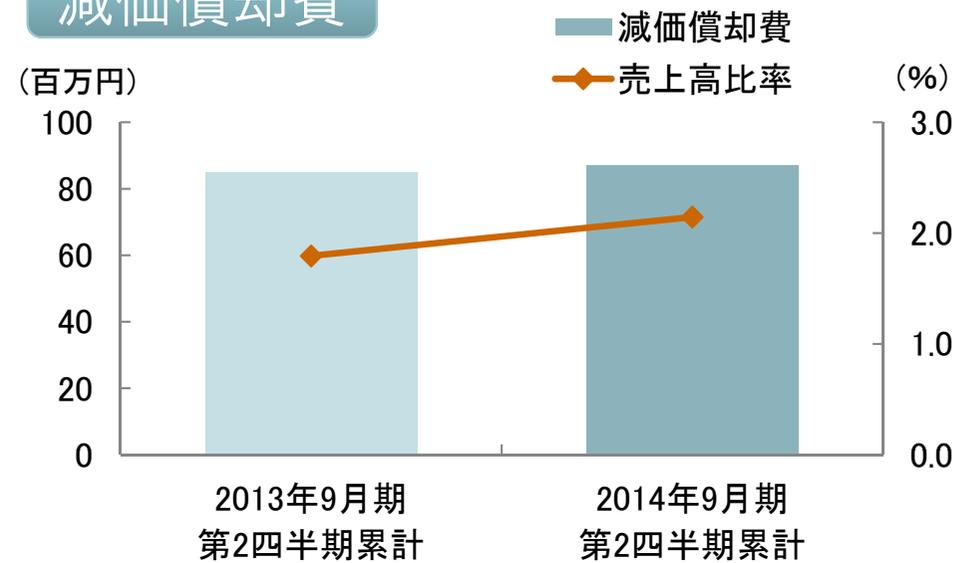


# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

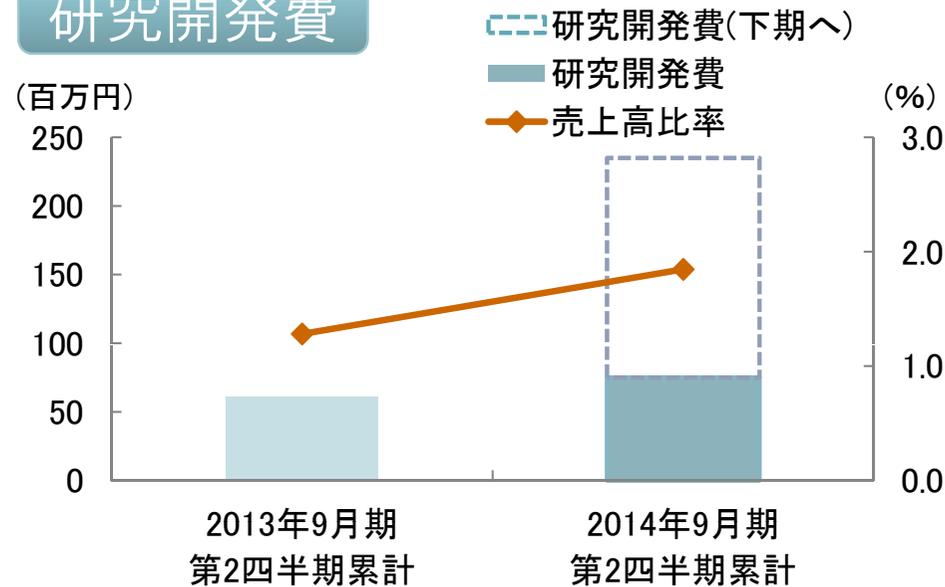
## 設備投資額



## 減価償却費



## 研究開発費



# 目次

- 第一部 2013年9月期 決算実績
- **第二部 2014年9月期 業績予想**
- 第三部 経営戦略と新規事業開発について

# 上期の予実差異について

- **研究開発費と補助金収入の発生時期のずれによる**
  - 研究開発費：プラントの仕様変更により下期にずれ込み
  - 補助金収入：一部補助金の受給手続き前倒し完了
- **金額は計画通りであり、通期の見通しに変更なし**
- **研究開発活動自体は順調に進捗**

2014年9月期第2四半期累計期間業績予想と実績値の差異

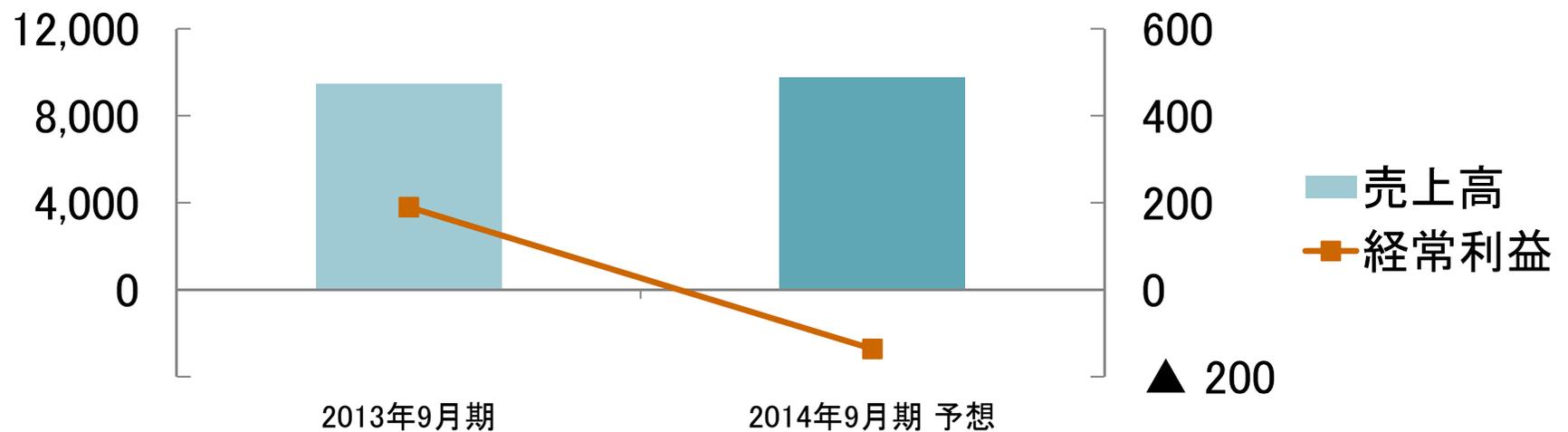
(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	4,207	▲ 225	▲ 236	▲ 173	▲ 69円77銭
実績値(B)	4,084	▲ 118	▲ 127	▲ 40	▲ 16円10銭
増減額(B-A)	▲ 123	106	109	133	—
増減率	▲ 2.9%	—	—	—	—

※2014年5月9日公表

# 業績予想

	2013年9月期		2014年9月期 予想			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	9,456	100.0	<b>9,766</b>	100.0	310	3.3
営業利益	203	2.2	<b>▲ 114</b>	<b>▲ 1.2</b>	<b>▲ 318</b>	—
経常利益	190	2.0	<b>▲ 136</b>	<b>▲ 1.4</b>	<b>▲ 327</b>	—
当期純利益	116	1.2	<b>132</b>	1.4	15	13.4



# 目次

- 第一部 2014年9月期第2四半期 決算実績
- 第二部 2014年9月期通期 業績予想
- 第三部 **経営戦略と新規事業開発について**

## □ 当社のこれまでの業績の特徴

- ▶ 外部環境に左右されやすい
- ▶ 外部環境とは、電子部品・デバイス工業分野の生産動向や貴金属及び銅の価格変動

## □ 安定した成長に向けた新規事業開発方針

- ▶ 外部環境の影響を受けにくい事業構造を実現
- ▶ 貴金属地金の販売から、付加価値を高めた製品への移行
- ▶ 技術開発投資により技術を蓄積し、新事業の創出を推進

## □ 新規事業開発の具体的テーマ

- ▶ 当社のコア技術である湿式分離技術を活かしながら、レアメタル・レアアースに対象品目の拡大を図る
- ▶ マレーシアを足がかりに、東南アジアで都市鉱山ビジネスを展開する
- ▶ 光触媒事業・水処理事業の拡大を図る

# 新規事業テーマの進捗状況

事業	現状
レアメタル・レアアース回収	<b>実証設備の建設中、2014年9月期中に実証実験完了予定</b>
歯科材料からの貴金属回収	前期黒字化を達成、さらなる拡大を図る
水処理事業	大手企業とOEM契約締結 汚泥減容に関する新たな取り組み
光触媒事業	大手太陽電池メーカー向けが順調に拡大 <b>福島再生可能エネルギー研究所</b> <b>「被災地企業のシーズ支援プログラム」採択</b>
海外事業	<b>マレーシアTWINKLE METAL社買収</b>

回収品目の拡大、高付加価値製品の開発などを模索中

# レアメタル・レアアース回収事業①

## レアメタル

※「地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難な金属のうち、安定供給の確保が政策的に重要」な非鉄金属（経済産業省による定義）。31鉱種

## レアアース

※31鉱種あるレアメタルの一種で、17種類の希土類元素の総称  
セリウム[Ce]、ランタン[La]など

### 高機能材

希土類磁石  
小型モータ

電子部品

次世代自動車

携帯電話・パソコン

デジタルカメラ

テレビ

### 製品の小型軽量化・省エネ化・環境対策

液晶

小型二次電池

燃料電池

排気ガス浄化

次世代自動車

コジェネ  
レーション  
システム

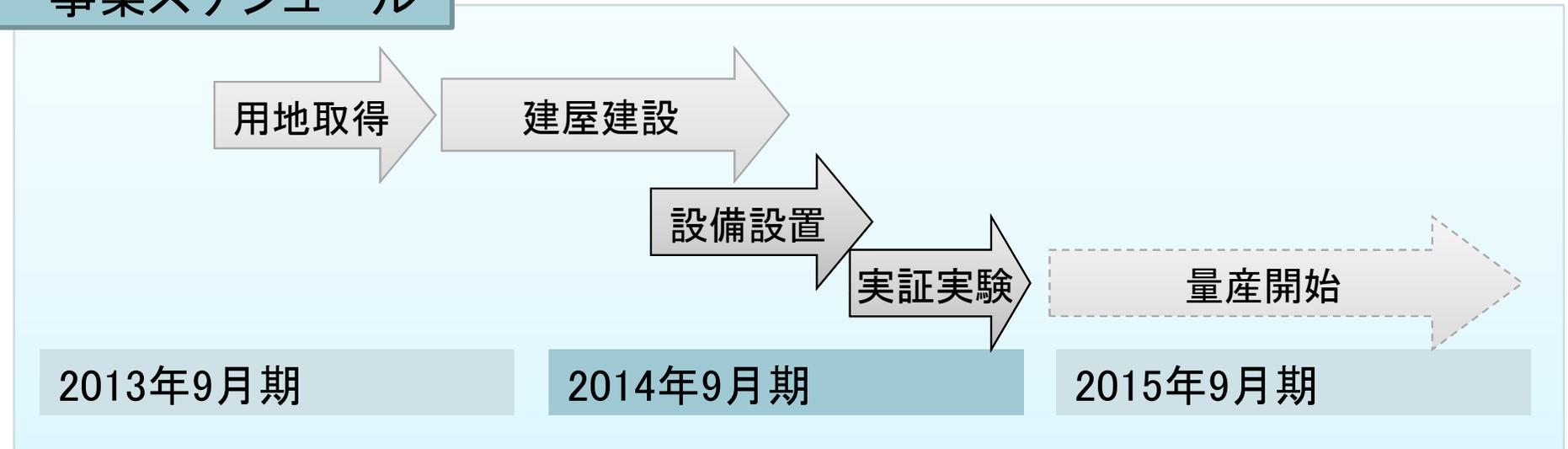
## レアメタル・レアアース回収事業②

- 平成23年度「レアアース・レアメタル使用量削減・利用部品代替支援事業(二次公募)」
- 平成25年度「ふくしま産業復興企業立地補助金」に採択



研究開発投資総額 約15億円に対し、約7億4千万円の補助金を受ける  
 本件による2015年9月期の償却費負担増は、1千5百万円程度  
 研究開発に係る機械設備は、今期中に償却

### 事業スケジュール



# TWINKLE METAL社買収について

電子部品メーカー各社も進出しており、成長著しい東南アジアを中心に市場調査

→マレーシアペナン州に本社を置く

TWINKLE METAL社の株式を60%取得  
(取得価格:約37百万円)



アサカ理研  
貴金属  
回収技術



東南アジア  
地域での  
事業拡大

TWINKLE METAL社  
処理ライセンス  
現地ネットワーク



# お問い合わせ先

IRに関するお問い合わせは下記までお願いいたします

株式会社アサカ理研 経営企画室

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字マセロ47番地

TEL:024(944)4744

FAX:024(944)4749

E-MAIL: [ir@asaka.co.jp](mailto:ir@asaka.co.jp)

URL: <http://www.asaka.co.jp/>

# 本資料の取り扱いについて

- 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。